

# 氷ノ山

ヤマメ茶屋 ~ 三の丸

日時 : 12月14日(土)

メンバー(敬称省略) : 大塚賢一、大本誠一



今回の山行は私にとって本格的な冬山デビューとなる。また、1週間前に3万円で購入したクロスカンリースキー(XC)も初めて使用した。

4:30

コンビニ「ポプラ」に集合。牛丼屋「すきや」で朝食を取り、氷ノ山へ向けて出発！

7:00

国道29号線を通ってヤマメ茶屋に到着。すでに積雪が30cm程あった。準備をしていざ登りを開始する。最初はXCで坂の谷登山口まで滑っていく。

踝まである雪をXCでラッセル。次第に夜が明けていく、天気予報では晴れでは

あったが、天候は曇り。この1週間は冬型の気圧配置が続いていたので雪が降り積もっていた。今日はすばらしく晴れてくれることを祈ってひたすら登る。

誰も通っていない雪上に我々がトレースをつける。しかし、雪が重い。交代しながらのラッセルであったが疲れた。疲労度はトップとセカンドでは天国と地獄のような違いがあった。スピードにおいては、大塚さんの速いこと速いこと。僕がセカンドで行くスピードと同じくらいで登っていく。私がトップになるとたちまちが落ちる。なんとか気力がついていく。



8:45

坂の谷登山口到着。疲れた！これから登るのか！と心底思った。XCからスノーシューに装備変更。XCの靴にスノーシューを付けることにした。寒い、凍える、雪に埋まる。私はスノーシューの時の靴はどうなるのかわからなかったので一応登山靴を持参していたのだがもちろん履き替える余裕はない。雪上での履き替えは非常に困難を極めた。もし登山靴に履きかえるとしたら相当な時間がかかっていたに違いない。装備変更のスピードの重要性を身にしみて感じた。

スノーシューで登山開始。地図を見ると三の丸まではガラガラとした上りが続く。前半は暗い杉林の中に行く。あたりまえだが誰もとった形跡が無いので全然道が無い。あるものは木と雪。ところどころに木に括ってある目印をヒントに登る。何回か迷ってしまった。

なんとか1時間程度で杉林をクリア。するとすばらしい景色が飛び込んでくる。朝曇っていた天候が晴れに変わっているではないか！思わずデジカメで写真を撮りまくる。



しかし、ラッセルは大変だ。雪道といえども夏は普通の山道。山道近くでは膝上までの比較的埋まらない程度なのだが、少しでも外れると腰まで雪で埋まってしまう、かなり体力を消耗してしまった。それでも、時間がある限りなんとか頂上を目指す。

13:15

三の丸非難小屋到着。ザックを置いて少し登って展望台まで行くが、ガスで辺りは何も見えなかった。しかし、小屋に戻ると晴れている...山の天候の変化にはいつも驚かされる。

三の丸非難小屋はとても貧弱だ。内部は外の雪が入ってきて雪まみれ。毛布もあったがガチガチに凍っていた。しかし、ないよりマシなのだろうなと。

ここで遅めの昼食を摂る。大自然の中でちっぽけな2人がラーメンを食べる。格別だ。

14:05

下山開始。我々がつけたトレースに沿ってバンバン下っていく。

15:05

坂の谷登山口に到着。早く着くなぁと思っていたが、ものすごいスピードで下ってこれた。

さぁ、ここからはXCで下っていただけだ。しかし、ここからが地獄だった。上りはパワーだけでいけたが、下りはテクニック。周囲からXCの下りは難しいということを知っていたので、事前からかなり不安だったのだが、まさかここまでとは...数知れずほどコケた。しかも雪は新雪。ザックは重い。起き上がれない。途中からは車が入っていたのでタイヤの跡に沿って滑った。これまたコケた。ザックは重い。起き上がれない。体力は少ない。起き上がる時「くっそー！」は声を出さないと起き上がれないほどだった。ん～難しいなぁ。。。

16:25

ヤマメ茶屋到着。つ、着いた...。くたくた。ヤマメ茶屋にはほとんど雪は無かった。その中でまたコケた。...登りと同じくらい時間が掛かったような気がする。

### 総括

冬山の厳しさは身にしみて感じた。手が悴む、足が冷たい。それにはいつでもスムーズな装備変更が非常に重要であること。しかし、天候に恵まれた最高の山行でした！良かったです！XC下りを除いて...(笑)。